１．北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (北海道)	◎	商店街（代表者）	・リンゴなどの果実類の収穫が盛んになることで、今後の販売量が増えることを期待している。
	◎	一般小売店［土産］（経営者）	・８月の売上が前年比で106.2%、一昨年比で119.1%と順調に推移していることから、今後については良くなる。
	○	一般小売店［土産］（経営者）	・北海道における秋の観光シーズンは紅葉を見に来る観光客はいるものの、それほど多くの観光客が訪れるシーズンではないが、今年は平成30年７月豪雨の影響で北海道方面の修学旅行が増えるという情報があり、秋から冬にかけての観光シーズンを支えることを期待している。また、外国人観光客についても引き続きＬＣＣの就航が微増で推移することで堅調に推移するとみられる。このため、全体的には、前年以上の観光客数で推移することになる。
	○	百貨店（販売促進担当）	・来道者数は引き続き伸びるとみられ、それに伴って当店の来客数もプラスで推移することになる。また、このまま季節の移り変わりが早く進めば、重衣料の動きが活発になり、客単価を押し上げることになるため、全体としてプラスで推移する。
	○	スーパー（役員）	・秋の農産物の順調な収穫が見込めることに加えて、海産物の漁獲も順調なことから、今後の消費が伸びることを期待している。
	○	コンビニ（エリア担当）	・今年は秋サケの回帰量が増えるという報道があり、それに伴って漁業者の浜作業が忙しくなり、当店にとってもプラスの効果が生じることを期待している。
	○	コンビニ（エリア担当）	・来客数の動きは天候に左右される面があるため、天候条件さえ整えば来客数が戻ってくることになり、売上も回復する。
	○	コンビニ（エリア担当）	・漁業の動きが回復傾向にあるため、今後についてはやや良くなる。
	○	コンビニ（エリア担当）	・客が夏場に余り消費を行わなかったことで、秋以降の消費が落ち込むといった反動が抑えられることになり、前年比での回復が見込める。
	○	衣料品専門店（店長）	・秋物への問合せが増えてきており、下見客も増えていることから、客の購買意欲が上向いてきている。
	○	乗用車販売店（従業員）	・これから先の新型車効果への期待が持てることから、景気はやや良くなる。
	○	観光型ホテル（スタッフ）	・恒例化しつつあるコンサートイベントに加えて、スポーツイベントの世界大会が開催されるため、今後についてはやや良くなる。
	○	通信会社（社員）	・年に１度の人気商材のニューモデルの発表時期になるため、業界的には集客、売上共に伸長することを期待している。
	○	通信会社（企画担当）	・秋の新商材発売を前にして、予約希望の声が想定よりも多く、今後の売上の底上げが期待できる。
	□	商店街（代表者）	・デフレが解消し、所得の増える状況が生じない限り、消費が増えることは考えられない。
	□	商店街（代表者）	・政治の方は、首相の動きが平々凡々と動いているが、景気の方は政治とは別に平々凡々と波風が立たないような生活をしていると思う。
	□	商店街（代表者）	・２～３か月後はハロウィーンなどの収穫祭に関連したイベントが終了し、冬のイベントが始まる前の月となるため、景気はやや悪い状態で推移する。また、外国人観光客についても、近年は小グループでの来街が中心となっていることから、現状維持程度で推移する。
	□	商店街（代表者）	・北海道を訪れる外国人観光客の国籍に変化がみられるなか、商材の購入よりも楽しみを求める傾向が強くなっており、一般的な商材に対する購買単価が低下している。今は来客数の増加で落ち込み分を補うことができているが、今後については心配である。
	□	一般小売店［酒］（経営者）	・ここ最近、売上が好調に推移していることから、２～３か月後も同じような傾向で推移する。
	□	百貨店（売場主任）	・外国人観光客の売上が底堅く推移しているため、今後も景気は変わらない。
	□	百貨店（担当者）	・必要なものにはお金をかけるが、ほかの出費は極力控えるという傾向が客にみられることから、今後も慎重な消費行動が続く。
	□	百貨店（役員）	・買上客数は緩やかな減少を続けているが、買上単価の変動が激しいことから、今後の動向については判断が難しい。

□	百貨店（営業販促担当）	・１次産業の強い地域であり、今年は天候不順の影響で収穫に悪影響が生じる予測が出ている。関連企業にもマイナスの影響が出てくることで消費が落ち込むことを懸念している。
□	スーパー（店長）	・客の節約志向は依然として強いため、今後も景気は変わらない。ただ、地元球団のリーグ戦の結果によっては景気が好転する可能性もある。
□	スーパー（店長）	・特に変わるような要因がないため、今後も景気は変わらない。
□	スーパー（店長）	・この先、当店のリニューアルなどができれば、ほかの競合店とも戦えるようになるが、今現在の状況が続くのであれば、どんどんジリ貧になる。
□	スーパー（役員）	・今更のことでもないが、少子高齢化の環境下、実店舗では、スーパーマーケット、ドラッグストア、ホームセンターなど、業態を超えた競合が激しくなっており、顧客の取り合いにより、来客数の減少、客単価の低下などが続いている。そのため、小売業全体として景気が良くなることはない。
□	コンビニ（店長）	・良くなる要因がないため、今後も景気は変わらない。
□	家電量販店（経営者）	・特に景気が良くなるような要因もないことから、今後も変わらないまま推移する。
□	家電量販店（店員）	・４Ｋ放送が12月に迫ってきていることで、少しずつ関心を持ってテレビコーナーを訪れる客が増えてきている。
□	乗用車販売店（経営者）	・当社主力の新型高級車を中心に、堅調な新車販売が依然として続いているため、今後も景気は変わらない。
□	乗用車販売店（経営者）	・市場動向が大きく変わるような要因が見当たらないことから、今後も景気は変わらない。
□	乗用車販売店（従業員）	・この半年間、景気が上向くことを期待していたが、良くも悪くもない状況が続いていることから、今後も変わらないまま推移する。
□	乗用車販売店（従業員）	・新聞報道などを通じて消費税増税について把握している客が少なく、エコカー減税の内容についても理解していない客が多いことから、今後の購買意欲の向上は見込めない。
□	自動車備品販売店（店長）	・例年、冬季は冬タイヤの動きで景気が左右されることになる。今年は冬タイヤの販売量が落ち込んでいることから、今後については苦戦が見込まれる。
□	その他専門店［医薬品］（経営者）	・年金不安、景気不安を気に掛ける客が増えてきたため、今後の景気が上向くことは期待できない。
□	高級レストラン（スタッフ）	・天候不順の影響で農家が思ったような収穫をできていない状況にあるため、今後の生産地の景気に影響が生じることを懸念している。
□	旅行代理店（従業員）	・今後の景気については、地元農業の秋の収穫状況に左右されることになる。ただ、現状からは一定程度の好調さは維持できる。
□	旅行代理店（従業員）	・与党総裁選挙結果いかんでは少し動くかもしれないが、現状を考えると余り変わらないのではないか。
□	タクシー運転手	・秋の観光シーズンを迎えて観光客の増える時期となるが、タクシーの利用は観光客の動向よりも天候に左右されることになる。また、乗務員不足で稼働が落ちているため、今後も会社としての売上増加は期待できない。
□	タクシー運転手	・労働者不足が顕著であり、前年並みの実績までは見込めないが、総じて景気そのものは変わらない。
□	観光名所（従業員）	・当地に寄港する客船の増加というプラス要因が見込めるが、修学旅行の少人数化と件数の減少による団体観光客の減少がマイナス要因となり、全体としては変わらないまま推移する。
□	観光名所（職員）	・８月は不安定な天候の影響により観光客の出足が悪く、前年を下回る実績となった。今後については、紅葉シーズンとなり、例年多くの観光客が来場するが、天候次第の面がある。
□	パチンコ店（役員）	・外国人観光客をターゲットとしている旅行関連の業種は依然として景気が良いものの、宿泊料金が値上がりしてきており、そのことが今後の景気にどのような影響を与えるのか分からない面がある。
□	美容室（経営者）	・以前であれば、猛暑や台風などの悪影響があると、その分、売上の落ち込みがみられたが、最近はほかの日にばん回できている。同じような売上で安定していることから、今後も景気は変わらない。
□	美容室（経営者）	・客の様子や売上の推移から、今後も景気に変化がないまま推移する。
□	その他サービスの動向を把握できる者［フェリー］（従業員）	・ツアー客を含めて、前年と比較して予約状況が余り芳しくないことから、今後の苦戦が見込まれる。

	□	住宅販売会社（経営者）	・景況感は余り良くないが、低金利に加えて、消費税増税前ということもあり、分譲マンション市場全体としては一進一退の状況にある。消費税増税前のしゅん工を予定しているマンションが多く、今後の販売動向によっては完成在庫が増加してくる懸念がある。
	▲	スーパー（企画担当）	・自社のみならず他社の状況をみても、来客数の動向は以前ほど良くない。単なる買い控えなのか、インターネット販売の影響なのか原因は定まっていないが、各社共に来客数対策が急務となっている。
	▲	乗用車販売店（従業員）	・今後は冬の商戦を迎えることになる。北海道の場合、冬タイヤへの交換などで客が来店する機会が増えるため、タイミング的に乗換えにつながることもあるが、北海道特有の動きとして冬に財布のひもが固くなる傾向があるため、景気はやや悪くなる。
	▲	その他専門店［ガソリンスタンド］（経営者）	・イラン産の原油が10月から輸入停止されることで、需給がひっ迫し、原油価格が上昇することが懸念される。
	▲	その他専門店［造花］（店長）	・８月の販売量が前年よりもダウンしていることから、来月以降もこの傾向が続く。購買意欲を上向かせるような施策がないこともマイナスである。
	▲	高級レストラン（経営者）	・天候不順の影響で野菜などの高騰がみられるため、買い控えが起きることを懸念している。
	▲	高級レストラン（スタッフ）	・８月から地元空港にＬＣＣの新規路線が就航したが、余り効果を感じられなかったため、今後の動向についても不透明である。
	▲	旅行代理店（従業員）	・観光繁忙期のピークを過ぎ、航空機の供給座席数も減ることになるため、利用者も減ることになる。ただ、例年10～11月は修学旅行など、当地への旅行需要の高い時期であるため、団体客に動きが出てくることを期待している。
	▲	タクシー運転手	・事前の予約状況や問合せ状況がやや少ないため、今後についてはやや悪くなる。また、月１～２件と件数は少ないものの、平成30年７月豪雨の影響による取消しがみられることもマイナス要因である。
	▲	タクシー運転手	・８月の稼働率がやや良かったが、夏季の様々なイベントの効果によるものであり、今後に向けての期待感を持てない。また、地元客の動きも余りみられない現状であるため、景気回復の動きを感じることもできず、今後も厳しい状況が続く。
	▲	タクシー運転手	・乗務員不足、働き方改革、最低賃金の上昇などのマイナス要因があるため、今後についてはやや悪くなる。
	▲	美容室（経営者）	・消費税増税や人件費の増大、人手不足などがマイナス要因となっており、今後についてはやや悪くなる。
	▲	住宅販売会社（経営者）	・天候不順の影響で農作物の生育状況が今一つであること、イカの不漁が続いていることなどから、先行きについては余り良くない状況にある。
	×	商店街（代表者）	・オフシーズンに向かうため、今後の景気は悪くなる。
	×	観光型ホテル（経営者）	・国内旅行の動きが引き続き鈍く、秋の紅葉行楽シーズンにおける一層の悪化が懸念される。
	×	タクシー運転手	・地域の主力産業である農業において、天候不順の影響による生産高の不振が現実のものとなりつつあり、景気に影響を及ぼし始めたことから、今後の景気は悪くなる。
企業動向関連 （北海道）	◎	－	－
	○	食料品製造業（従業員）	・数件の新規受注が決まりつつあるなど、秋以降に向けて景気がやや良くなる兆しが現れている。
	○	コピーサービス業（従業員）	・大きな設備投資計画の話が様々な顧客から聞こえてくるため、今後の景気はやや良くなる。
	○	その他非製造業［鋼材卸売］（従業員）	・先行受注量が徐々に増えているため、今後についてはやや良くなる。活況な市場ではまだまだ需要が高まる。
	□	家具製造業（経営者）	・観光地のホテル建設などに伴う家具需要が増加しているが、あくまでもスポット需要であり、今後も継続する保証はない。そのため、トレンドとしての景気低迷を払拭するまでには至らない。
	□	建設業（経営者）	・公共土木工事については災害復旧工事が一段落したことから、前年よりも１割程度のダウンが見込まれる。また、今後、工事の稼働が最盛期を迎えることになるが、例年のパターンだと作業員が不足することになる。
	□	建設業（役員）	・手持ち工事の進捗が良好なことから、出来高も順調に推移することが見込まれる。ただ、鉄材がひっ迫しており、今後の工期に影響が生じる懸念がある。
	□	輸送業（支店長）	・冬場までは現在の人員不足が解消しそうにないため、忙しいがもうからない環境は今後も変わらない。

	□	輸送業（営業担当）	・北海道内の天候不順の影響により、農作物の生育に品目ごとのばらつきが生じているが、農作物全体の輸送量は例年並みになるとみられる。ただし、９月以降、本格的に始まる本州向けの生乳の輸送量を確保できるか不安が残る。
	□	金融業（従業員）	・エネルギー価格の上昇が今春の賃上げ効果を相殺することになり、個人消費が勢いを欠く状況は変わらない。今後の道内景気を大きく押し上げる材料に乏しく、３か月後の道内景気は変わらないまま推移する。
	□	司法書士	・現在の状況から、今後も大きな変化はないまま推移する。将来的に景気が良くなるような判断材料も見当たらない。
	□	その他サービス業［ソフトウェア開発］（経営者）	・今後も仕事が途切れることはないとみられるが、人材がいないため、そのチャンスを生かすことのできない状況が今後も続く。
	□	その他サービス業［建設機械レンタル］（総務担当）	・公共工事の発注が上向いているとの情報があるが、全体としては微増とみられることから、今後しばらくは売上が前年並みで推移する。
	▲	食料品製造業（従業員）	・原料のキャベツとタマネギの価格が高止まりしているため、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	建設業（従業員）	・大型建築工事が少なくなっていることから、下期に向かって工事量が減少していくことが見込まれる。
	▲	通信業（営業担当）	・今期も半年が過ぎ、上半期の総括とともに今期業績の見込みについて周囲の企業と話をする機会が増加しており、下期業績に対してこれまでより慎重な見方をする企業が増加している。このため、今後の景況感については、これまでよりも下振れすることになる。
	▲	司法書士	・例年、不動産の売買、建物の新増改築は秋口から受注が低迷してくるため、今後についてはやや悪くなる。
	▲	司法書士	・景気が良いのは東京方面のみで、地方では景気回復の兆しさえ見えないことから、このままでは景気が後退することになる。
	×	－	－
雇用関連（北海道）	◎	－	－
	○	人材派遣会社（社員）	・今後も求人ニーズは底堅く推移する。良い人材が採用できないという求人企業の不満の声も聞こえてくるが、企業の業績拡大意欲が衰えているようにはみえない。人材確保に加えて、現従業員の質の向上を図るための従業員教育に対するニーズが増えており、増員と既存従業員の戦力化の両輪で業績拡大を目指している企業が増えている。
	○	新聞社［求人広告］（担当者）	・農作物の生育状況が堅調なことから、今年も農業産出額が高くなることが見込め、雇用情勢もやや良くなることが期待できる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・現状、企業の人手不足感が景気の良しあしと結び付いてはいないが、このまま人手不足が続くと景気そのものの足を引っ張りそうなことが気掛かりである。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・思うように人材を採用できない企業が多いため、今後しばらくは大きな変化はないまま推移する。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・これから地元自治体の庁舎の建設工事が始まる予定もあるが、公共工事が一巡していることから、地元企業が恩恵を受ける機会は少ないとみられ、今後も景気は変わらない。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・2020年の東京オリンピック終了までは現在の状況が続く。ただし、企業の人材募集、採用については待ったなしの状況であり、待遇面や職場環境の改善、時代に合った人材の活用方法の工夫などを順次行っていかなければ、一層の採用難に陥ってしまうことになる。
	□	職業安定所（職員）	・月間有効求人数が前年を上回り、月間有効求職者が減少する傾向にあることから、今後しばらくは求人倍率が前年を上回る傾向が続く。
	□	職業安定所（職員）	・有効求人倍率が９か月連続で前年を上回り、業種によっては人手不足が深刻化していることから、今後も景気は変わらない。
	□	職業安定所（職員）	・７月の大雨による農業被害が、今後の雇用情勢に悪い影響を与えることを懸念している。
	□	職業安定所（職員）	・スルメイカについて漁解禁から低調な水揚げが続いていることから、イカを原料とする加工業者の今後の業況に不安がある。

	□	学校［大学］（就職担当）	・家電量販店や観光関連の新卒採用担当者からは、今後も消費者の消費意欲が期待できるため、秋以降も新卒採用を継続したいとの話を聞く。そのため、公務員希望から民間希望に転換する学生や部活が終了した学生の就職活動が本格的に動き出す２～３か月後以降の動きを期待している。ただ、物流関連や自動車ディーラーについては無理な採用計画を控えているようである。
	▲	＊	＊
	×	－	－